

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	69人	算数	69人	理科	69人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	87人	算数	88人	理科	88人
------	----	-----	----	-----	----	-----

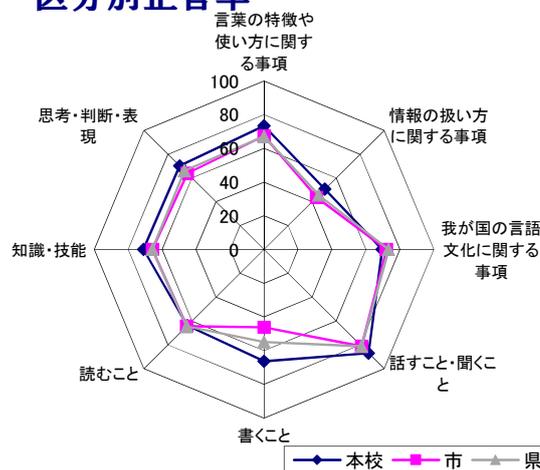
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.4	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	50.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	69.6	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	87.0	81.2	81.2
	書くこと	66.3	46.2	54.9
	読むこと	63.8	64.3	64.5
観点	知識・技能	71.0	65.7	65.7
	思考・判断・表現	70.2	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

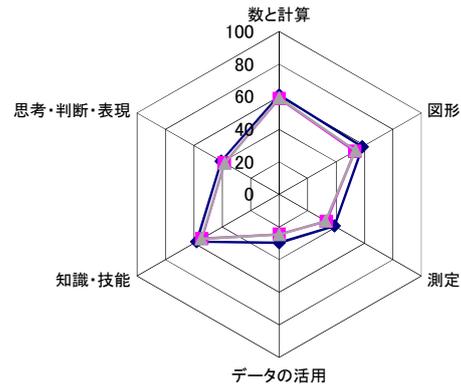
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○領域の平均正答率は73.4%で、市の平均より6ポイント高い。特に前年度に履修した漢字の読み取り書き取りについては、全ての設問において市の平均を上回った。	・漢字の学習において、指書きやなぞり書き、写し書きといったステップを踏んだ指導を行い、反復練習する機会を設けたり、AIドリルを活用したりして習熟を図る。 ・パソコンでローマ字入力の実践をするなど、楽しみながら学習を進めていく。
情報の扱いに関する事項	○領域の平均正答率は50.7%で、市の平均より6.9ポイント高い。国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる設問の正答率は50.7%で、市の平均より6.9ポイント高い。	・国語辞典を使う機会を意図的に増やすことで、多くの言葉に触れられるようにする。 ・多義語や同音異義語等複数の意味をもつ言葉については、日常生活の事象と結びつけることでイメージをもたせながら、意味の違いを捉えさせる。
我が国の言語文化に関する事項	●領域の平均正答率は69.6%で、市の平均より2.5ポイント低い。漢字のへんとつくりを正しく組み合わせることで既習の漢字をつくることのできるかどうかをみる設問の正答率は69.6%で、市の平均より2.5ポイント低い。	・漢字の成り立ち、へんやつくりの意味について考えさせる機会を確保し、興味や関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は87.0%で、市の平均より5.8ポイント高い。相手に伝わるように、自分の考えを、理由をあげながら話すことのできるかどうかを見る設問の正答率は88.4%で、市の平均より7.1ポイント高い。	・互いの意見の共通点や相違点に着目して聞きながら、自分の意見をまとめ、理由を明らかにして述べるように、話し合い活動を充実させる。 ・国語の学習で学んだことを生かして学級活動の話し合いが行えるようにするなど、意識して実践できる場を意図的に設ける。
書くこと	○領域の平均正答率は66.3%で、市の平均より20.1ポイント高い。自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことのできるかどうかを見る設問の正答率は72.5%で、市の平均より23.9ポイント高い。	・日頃から、興味や関心のあるテーマについて書く機会を設けることで、理由や考えたことなどを明確にしながらかきで表現できるよう指導していく。
読むこと	●領域の平均正答率は63.8%で、市の平均より0.5ポイント低い。 ○情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかを見る設問の正答率は68.1%で、市の平均より6.5ポイント高い。 ●叙述を基に段落の内容を捉えることのできるかどうかをみる設問の正答率は42.0%で、市の平均より10.4ポイント低い。	・段落に書かれている内容を要約しながら読み、どのようなまとまりに分けられるかを考えさせる活動を増やす。 ・読書の時間を積極的に設けることで、日常的に文章を読む習慣を身に付けさせる。

宇都宮市立小上戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

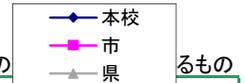
★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.0	58.9	59.2
	図形	58.5	53.0	53.7
	測定	38.8	33.1	32.6
	データの活用	29.7	24.4	24.6
観点	知識・技能	58.1	54.3	54.7
	思考・判断・表現	40.8	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

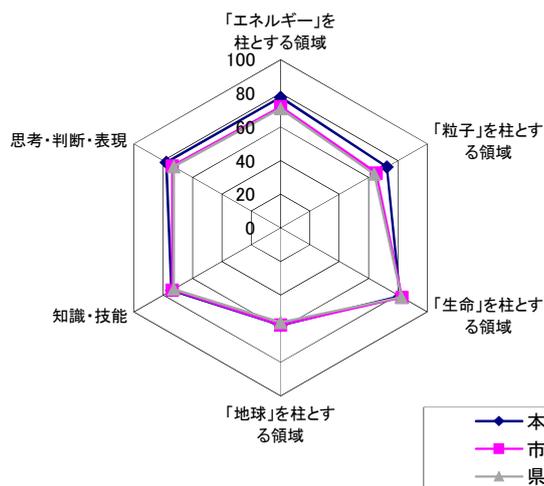
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域の平均正答率は61.0%で、市の平均より2.1ポイント上回っている。</p> <p>○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ設問では、正答率が94.2%で、市の平均を11.4ポイント上回っている。</p> <p>●数量の関係について□を使って正しく表された図を選ぶ設問では、正答率が63.8%で、市の平均を8.1ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの</p> <p>・今後もドリル等を用いて反復練習を繰り返すことで、基礎・基本のさらなる定着を図っていく。</p> <p>・数量の関係について図や言葉で説明する活動を算数の授業の中で継続して行っていく。</p>
図形	<p>○領域の平均正答率は、58.5%で、市の平均より5.5ポイント上回っている。</p> <p>○円の性質を利用して正三角形を作図する設問では、正答率が52.2%で、市の平均より13.3ポイント高い。</p> <p>●球の半径を利用して箱のたての長さを答える設問では、正答率が50.7%で、市の平均を0.1ポイント上回っているものの、習熟を図る必要がある。</p>	<p>・円や球についての理解を深めるため具体物などを利用して、直径や半径の意味を確認させ、復習問題やフォローアップ問題を活用して習熟を図る。</p>
測定	<p>○領域の平均正答率は、38.8%で、市の平均より5.7ポイント上回っている。</p> <p>○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問では、市の平均より8.8ポイント上回っている。</p> <p>●地図から2つの道のりを読み取り、差を答える設問では、正答率が44.9%で、市の平均を0.6ポイント上回っているものの、習熟を図る必要がある。</p>	<p>・問題の場面や構造を整理して捉え、図と関連付けて考える問題を活用して理解を深めていく。</p>
データの活用	<p>○領域の平均正答率は29.7%で、市の平均より5.3ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフを読み取り、二番目に多い落とし物の種類を答える設問では、正答率が59.4%で、市の平均を11.6ポイント上回っている。</p> <p>●表示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する設問では、正答率が8.7%で、市の平均を2.3ポイント下回っている。</p>	<p>・算数の授業の中で棒グラフの特徴や利点を考える活動を行うとともに、社会や総合の学習など他教科の学習と結び付けながら身の回りの事象について活用し習熟を図っていく。</p>



宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.7	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	72.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	81.3	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	58.0	57.7	56.2
観点	知識・技能	74.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	77.9	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は77.7%で、市の平均より5.6ポイント上回っている。</p> <p>○日光を集めたときの明るさとあたたかさについての実験結果として適切な記録を選ぶ設問においては、正答率が68.1%で、市の平均より12.9ポイント高い。実験を通して体験的に学んだ内容はよく理解されていた。</p> <p>○実験の結果から回路の見えない部分について考える設問においては、正答率が68.1%で、市の平均より11.6ポイント高い。</p> <p>●大きい音と小さい音を比べた時の震え方についてあてはまる内容を選ぶ設問においては、正答率が72.0%で、市の平均より3.9ポイント低い。</p>	<p>・今後も実験など体験的な学習を多く取り入れて理科に対する興味・関心を高め、知識の定着を図る。</p> <p>・基礎的な知識を復習する時間を設ける。</p> <p>・回路図を描いたり、実際に回路を組んだりして、内容理解を深められるようにする。</p> <p>・音の性質を理解するために、音楽室にある楽器などを実際に使って、自由に音を鳴らしてみること、その性質について理解を深められるようにしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は72.5%で、市の平均より7.3ポイント上回っている。</p> <p>○形を変えても物の重さは変わらないことについて実験の結果から正しいものを選ぶ設問においては、正答率が94.2%で、市の平均より6.1ポイント高い。</p>	<p>・形を変えても物の重さは変わらないことを理解させるために、物の形の変化を見るのではなく、重さを量った結果、どのようになったかを記録カードなどに書かせる。</p> <p>・それぞれの実験結果からどのようなことが言えるのか、グループや全体で話し合い、分かったことなど、考えを共有させることで理解を深められるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>●領域の平均正答率は81.3%で、市の平均より1.5ポイント下回っている。</p> <p>○ダンゴムシが昆虫の仲間ではない理由を問う設問においては、正答率が76.8%で、市の平均より5.6ポイント高い。</p> <p>●虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ設問では、正答率が43.5%で、市の平均より11.8ポイント低い。</p>	<p>・植物の観察などでは、虫眼鏡の正しい使い方について、実物や視聴覚映像を活用しながら指導する。</p> <p>・観察回数を増やし、虫眼鏡を繰り返し使ったり、個人で観察するだけでなく、グループで教え合える環境を意図的に作ることで使い方の定着を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は58.0%で、市の平均より0.3ポイント下回っている。</p> <p>○太陽が動く方位を選ぶ設問においては、正答率が62.3%で、市の平均より7.2ポイント高い。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方を選ぶ設問においては、正答率は39.1%と低く、市の平均を8.2ポイント下回っている。</p>	<p>・既習内容の定着を図るために、計画的に学習内容を復習する時間を設ける。</p> <p>・観察用具の正しい使い方について指導し、使用回数を増やす。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家でテストでまちがえた問題について勉強をしている」という質問に対しての肯定的回答率は、76.8%で、市の平均より9.1ポイント高い。このことから子供たちは、間違えた問題をしっかりと理解して、学習内容を深めたいという前向きな姿勢で、粘り強く学習に取り組んでいることが見受けられる。今後もこの粘り強さを生かしながら、児童が分かる喜びを感じられるよう指導していきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という質問に対しての肯定的回答率は、86.3%で、市の平均より14.6ポイント高い。このことから児童の分からないことが分かるようになりたいという知的好奇心の高さを感じられる。「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」や「できるだけ自分一人の力で課題をかいけつしようとしている」という質問の肯定的回答率も市の平均より高いポイントとなっており、自分で主体的に問題に関わろうという意欲の高さが見受けられる。今後もさらに、児童の学習意欲を高められるような授業展開を工夫していきたい。

○「自分は、勉強がよくできる方だと思う」という質問に対する肯定的回答率は、75.3%で、市の平均より7.9ポイント高い。児童が学習面で自信を持っていることが感じられる。また、「自分の行動や発言に自信を持っている」という質問に対する肯定的回答率は、74.0%で市の平均より6.2ポイント高く、授業でも、自信を持って自分の考えを発表することができている児童が多いことが分かった。

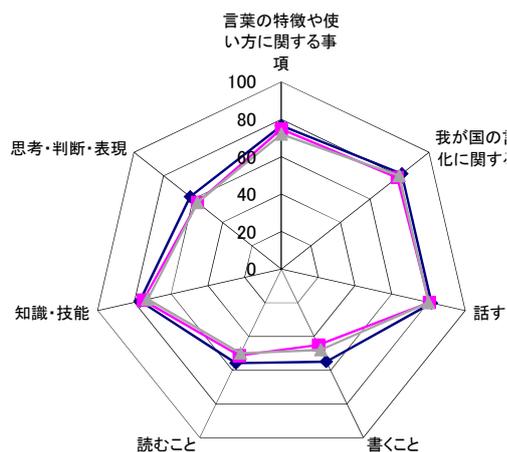
○「総合的な学習の時間が好きだ」という質問に対して、肯定的回答率は94.5%で、市の平均より8.3ポイント高い。地域のことや身の回りの生活で気になる出来事に対して、興味・関心を持って意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。引き続き、地域の人や施設に協力を仰ぎながら、体験的な学習と、本やパソコンを使った調べ学習を推進し、児童が楽しく学習に向かえるようにしていきたい。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問に対する肯定的回答率は、91.7%で市の平均より2.7ポイント高い。これからも授業で、話し合う活動を多く取り入れていきたい。それに対し、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対する肯定的回答率は、76.7%で市の平均より1.9ポイント低い。自分から進んで話し合い活動に参加し、より深い学びができるように支援していきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.6	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.6	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.6	80.4	80.0
	書くこと	54.9	45.1	48.0
	読むこと	55.8	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.0	75.2	72.8
	思考・判断・表現	62.0	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

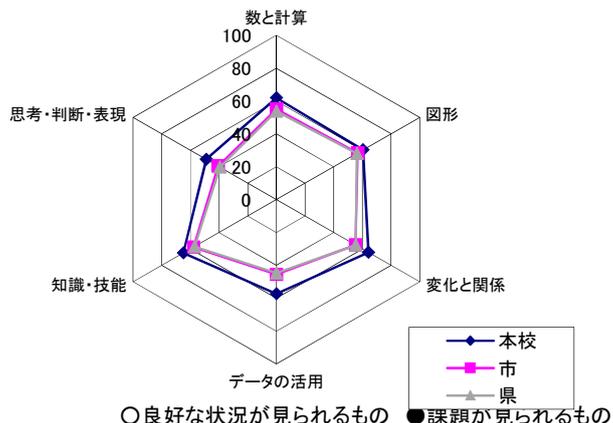
○良好な状況が見られるもの (●本校 ●市)

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は76.6%で、市の平均を1.8ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を正しく書く設問では、熟語の問題の正答率が市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●漢字を正しく書く設問の送り仮名を交えて書く問題の正答率が、市の平均を15.7ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、朝の学習や家庭学習等で基礎的な漢字の反復練習を行っていく。漢字の苦手の児童については、音読を含め、日常から漢字に触れる機会を増やしていく。</p> <p>・漢字の反復練習を行う際には、送り仮名についても意識させるようにしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>○領域の平均正答率は81.6%で、市の平均を3ポイント上回っている。</p>	<p>・ことわざや慣用句に関する本やスタンダードダイアリーを活用し、日常的にことわざに触れる機会を設けることで、そのよさに気付かせ、生活の中でも進んで使おうとする意欲が高まるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○領域の平均正答率は81.6%で、市の平均を1.2ポイント上回っている。</p> <p>○話し手の工夫や話し手が伝えたいことを聞き取る設問の正答率は、共に高い。</p> <p>●聞き取ったことをもとに自分の考えをまとめる設問では、2つの条件を満たして書くことに課題が見られる。</p>	<p>・国語以外の教科でも話し合いの場面を意図的に設定し、意図したことが伝わるような話し方の工夫を意識できるようにする。</p> <p>・司会者を輪番で行わせるなどして、話し合いの要点をまとめる経験をさせる。</p> <p>・自分の考えを述べるときは、聞く人に分かりやすく理由を述べるように支援していく。</p>
書くこと	<p>○領域の平均正答率は54.9%で、市の平均を9.8ポイント上回っている。</p> <p>○全ての設問で正答率が市の平均を上回っており、特に、文章を二段落構成で書く設問では、正答率が56.3%で市の平均を15.3ポイント上回っている。また、無回答率が全ての設問で、市の平均より5ポイント以上低くなっている。</p>	<p>・今後も様々な活動場面で、条件に合わせて文章を書く活動を積極的に取り入れていく。</p>
読むこと	<p>○領域の平均正答率は55.8%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○登場人物の性格について読み取る設問では、正答率が66.7%で、市の平均を11.4ポイント上回っている。そして、叙述を基に文章の内容を捉える設問では、正答率が62.1%で、市の平均を17.3ポイント上回っている。</p> <p>●叙述を基に段落相互の関係を捉える設問では、正答率が26.4%で、市の平均を13ポイント下回っている。</p>	<p>・叙述を基に登場人物の気持ちを読み取ったり説明文の内容を読み取ったりすることはよくできているため、今後も読書活動を通して読む力を身に付けられるようにする。</p> <p>・段落の内容ごとのまとまりの見分け方に課題が見られるため、説明文を読み取るときは、接続詞や指示語、キーワードなどに着目させ、段落相互の関係を正しく捉えられるように工夫していく。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.9	54.9	53.7
	図形	60.4	56.6	56.1
	変化と関係	64.2	55.1	55.2
	データの活用	57.3	45.5	44.8
観点	知識・技能	64.9	57.8	57.2
	思考・判断・表現	49.0	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

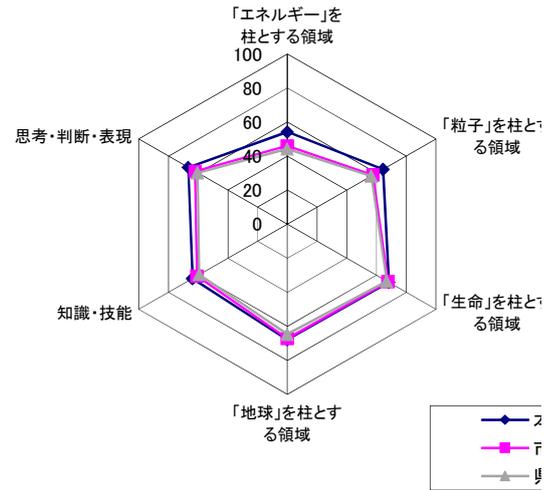
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域の平均正答率は61.9%で、市の平均を7.0ポイント上回っている。</p> <p>○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表すことができるかどうかを見る設問の正答率が69.3%で、市の平均を13.5ポイント上回っている。</p> <p>●小数第一位÷整数＝小数第二位の計算ができるかどうかを見る設問の正答率が50.0%で、市の平均を3.1ポイントを下回っている。</p>	<p>・小数÷整数の計算や四則計算の順序の理解が不十分であるため、習熟度別学習などの学習形態を工夫し、個に対応した学習活動をしたり計算スキルやAIドリル等を活用したりして習熟を図る。</p>
図形	<p>○領域の平均正答率は60.4%で、市の平均を3.8ポイント上回っている。</p> <p>○180度より大きい角の大きさの求め方を理解しているかどうかをみる設問の正答率が62.5%で、市の平均を14.4ポイント上回っている。</p> <p>●立体の辺と面の位置関係を理解しているかどうかをみる設問の正答率が53.4%で、市の平均を7.6ポイント下回っている。</p>	<p>・立体の辺と面の位置関係を、立体の模型などの具体物で確認しながら、様々な問題に取り組みせることで習熟を図る。</p> <p>・作図の仕方について、図形の定義から導き出された性質や特徴、用具の基本的な使い方などの既習事項を確認しながら、取り組みせる。</p>
変化と関係	<p>○領域の平均正答率は64.2%で、市の平均を9.1ポイント上回っている。</p> <p>○表をたてに見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる設問の正答率が53.4%で、市の平均を12.0ポイント上回っている。</p> <p>●比べ方について、差を用いる場面と割合を用いる場面について説明することができるかどうかをみる設問では、市の平均を14.2ポイント上回っているものの、正答率が45.5%と低い。</p>	<p>・国語科との関連を図り、言葉や文で説明する活動を多く取り入れたり、問題場面の把握や解決方法について話し合う場面を設けたりする。</p>
データの活用	<p>○領域の平均正答率は57.3%で、市の平均を11.8ポイント上回っている。</p> <p>○折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができるかどうかをみる設問の正答率が76.1%で、市の平均を17.8ポイント上回っている。</p> <p>●グラフから正しく変化の様子を読み取ることができるかどうかをみる設問では、市の平均を5.4ポイント上回っているものの、正答率が14.8%と低い。</p>	<p>・理科など他教科との関連を図り、グラフから様々な情報を正確に読み取れるようにする。</p> <p>・学年末などの復習の時間を活用して、問題の場面を正しく理解し、適切な言葉を用いて分かりやすく説明する問題に取り組みせる。</p>

--	--	--

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	54.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	64.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	67.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	63.8	60.8	59.2
	思考・判断・表現	66.7	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は54.2%で、市の平均より8.2ポイント上回っている。</p> <p>○乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかを問う設問では、平均正答率が70.5%で市の平均より10.2ポイント上回っている。</p> <p>●並列つなぎの回路に流れる電流の大きさが乾電池一つの時と同じであることについて理解しているかを問う設問では、正答率が45.5%で市の平均より0.9ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、実験を通して器具の操作や試行錯誤の時間を十分に確保し、理解を深められるようにする。</p> <p>・「電気のはたらき」を学習する時には、根拠を持って結果を予想しながら実験に取り組めるようにする。また、回路や電流の大きさについて丁寧に確認することで、理解を深められるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は64.4%で、市の平均より6.7ポイント上回っている。</p> <p>○金属をあたためたときの体積の変化について身近な出来事と関連付けて理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が54.6%で、市の平均より19.2ポイント上回っている。</p> <p>●実験の結果からあわの正体を推測できるかどうかを問う設問では、市の正答率を上回っているが、正答率が34.1%と低い。</p>	<p>・今後も、学習した内容を日常生活の中の様々な事象と関連付けて考えることで、理解を深められるように支援していく。</p> <p>・理由を文章で記述する力を高めるため、授業において考察やまとめを自分の言葉で書くことを継続していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は68.4%で、市の平均より0.6ポイント上回っている。</p> <p>○骨と関節について理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が85.2%で、市の平均より2.8ポイント上回っている。</p> <p>●季節ごとの動物の活動について理解しているかどうかを問う設問では、正答率が69.3%で市の平均より4.8ポイント下回っている。</p>	<p>・目に見えない物についての学習では、模型や具体物を操作したり資料映像で確認したりして、理解を深める支援をしていく。</p> <p>・生き物の観察を行ったり日常生活や体験を想起させたりしながら、動物はそれぞれの種の特性に応じて、季節の変化に合った活動の仕方をしていることを理解できるよう指導していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は67.9%で、市の平均より0.7ポイント上回っている。</p> <p>○蒸発について理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が69.3%で市の平均より11.4ポイント上回っている。</p> <p>●星の色について理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が50.0%で、市の平均より8.7ポイント下回っている。</p>	<p>・日常の中で、身の回りの事象を理科的用語を用いて説明する機会を繰り返し設ける。</p> <p>・星空の観察を呼び掛けたり、視聴覚映像を活用したりすることで、星の色のちがいについて理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対する肯定的回答率は81.8%で、市の平均を7.5ポイント上回っている。「学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上学習している」と答えた児童は59.2%で、市の平均を8.9ポイント上回っている。今後も、学校で目安としている学習時間（60分）を意識しながら、家庭学習をより充実していきけるよう支援していきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に対する肯定的回答率は61.4%で、市の平均より0.8ポイント下回っている。その日の学習内容を振り返る宿題を提示したり、自分の苦手な学習に進んで取り組んだりできるよう、自主学習の仕方を具体的に示しながら支援していく。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対する肯定的回答率は84.1%で、市の平均を6.7ポイント上回っている。さらに「クラスは発言しやすい雰囲気である」という質問に対する肯定的回答率は90.9%で、市の平均を6.9ポイント上回っている。今年度も、学校の研究課題である「自ら考え交流し、学びを深められる児童の育成」を目指し、児童が、話し合いを通して学びを深められるような授業を展開する。

○「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」という質問に対する肯定的回答率は100%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。「自分は勉強がよくできるほうだ」という質問に対する肯定的回答率は69.3%で、市の平均を8.9ポイント上回っている。「自分にはよいところがあると思う」という質問に対する肯定的回答率は92.1%で、市の平均を8.3ポイント上回っている。これらのことから、児童が自信を持って学校生活を送っていることがうかがえる。今後もさらに自己肯定感を高めたい。児童の頑張りを認め、励ましていきたい。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対する肯定的回答率は82.9%で、市の平均を12.2ポイント上回っている。このことから家庭内で十分なコミュニケーションを図ることで、将来に希望を抱いている様子が見られる。

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」という質問に対する肯定的回答率は83%で、市の平均より4.6ポイント上回っている。「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」という質問に対する肯定的回答率は90.9%で、市の平均より6.6ポイント上回っている。今後も自分の思いを豊かに表現し、友達との交流を通して、よりよい表現ができるように支援していく。

宇都宮市立上戸祭小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力の育成	・根拠や理由を挙げながら、自分の考えを記述することができるよう、指導に力を入れている。	・4・5年生ともに、国語の「書くこと」の設問の正答率は、市の平均を上回り、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」と肯定的に回答した児童の割合は、ともに80%を上回った。
自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成	・児童が見通しを持って学習したり、自力解決に取り組んだりする意欲を高められるように授業展開や課題設定を工夫している。 ・友達の考えと比べて自分の考えを吟味することで、考えを深められるようにしている。	・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と肯定的に回答した児童の割合は、4年生は80%を上回り、5年生も77%を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、叙述を基に段落の内容を捉える問題に課題が見られた。 算数や理科では、用語を正しく使って過不足なく説明する力に課題が見られた。	読む力の育成 書く力の育成	・文章の要約や、段落相互の関係を正しく捉える活動を取り入れる。 ・基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された用語を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。